

標準的な健診・保健指導プログラム（暫定版）	修正案
<p>※ 行動変容ステージとは、行動変容に対する準備段階のことで、次の5つのステージに分けられる。ステージごとに支援方法を変え、ステージが改善していけるように支援する。</p> <p>無関心期：6ヶ月以内に行動変容に向けた行動を起こす意思がない時期 関心期：6ヶ月以内に行動変容に向けた行動を起こす意思がある時期 準備期：1ヶ月以内に行動変容に向けた行動を起こす意思がある時期 実行期：明確な行動変容が観察されるが、その持続がまだ6ヶ月未満である時期 維持期：明確な行動変容が観察され、その期間が6ヶ月以上続いている時期</p> <p>5) 保健指導の際に活用する支援材料 保健指導の実施にあたっては、支援のための材料、学習教材等を整備することが必要であるが、これらは、常に最新の知見、情報に基づいたものにしていくことが重要であり、常に改善が必要である。</p> <p>また、支援のための材料等は、対象者に対するもののみでなく、保健指導を担当する者に対するものも必要となる。さらに、それぞれ支援のための材料等は、何をめざして使用するのかということをはっきりと明らかにしてわかりやすくまとめていくことと、地域の実情や職域の状況に応じた工夫をしていくことが重要となる。</p> <p>①アセスメントに関する支援材料 対象者の課題の明確化のために、身体状況、生活習慣、健康に関する意識、家族の状況、仕事の状況等についてアセスメントを行うための材料である。</p> <p>②行動目標設定のための支援材料 行動目標を設定し、評価をしていくための材料である。</p> <p>③知識の提供・生活習慣改善のための支援材料（学習教材） 生活習慣病や内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）に関する知識、生活習慣に係る意識啓発や実際に生活習慣を改善するための具体的な方法を提供するための材料である。</p> <p>④自己実践を支援するための支援材料（特に継続的に支援するための材料） 対象者が設定した行動目標の達成のために活用する実践状況の記録、通信による支援等のための材料である。</p>	<p>※ 行動変容ステージとは、行動変容に対する準備段階のことで、次の5つのステージに分けられる。ステージごとに支援方法を変え、ステージが改善していけるように支援する。</p> <p>無関心期：6ヶ月以内に行動変容に向けた行動を起こす意思がない時期 関心期：6ヶ月以内に行動変容に向けた行動を起こす意思がある時期 準備期：1ヶ月以内に行動変容に向けた行動を起こす意思がある時期 実行期：明確な行動変容が観察されるが、その持続がまだ6ヶ月未満である時期 維持期：明確な行動変容が観察され、その期間が6ヶ月以上続いている時期</p> <p>6) 保健指導の際に活用する支援材料 保健指導の実施にあたっては、支援のための材料、学習教材等を整備することが必要であるが、これらは、常に最新の知見、情報に基づいたものにしていくことが重要であり、常に改善が必要である。</p> <p>また、支援のための材料等は、対象者に対するもののみでなく、保健指導を担当する者に対するものも必要となる。さらに、それぞれ支援のための材料等は、何をめざして使用するのかということをはっきりと明らかにしてわかりやすくまとめていくことと、地域の実情や職域の状況に応じた工夫をしていくことが重要となる。</p> <p>①アセスメントに関する支援材料 対象者の課題の明確化のために、身体状況、生活習慣、健康に関する意識、家族の状況、仕事の状況等についてアセスメントを行うための材料である。</p> <p>②行動目標設定のための支援材料 行動目標を設定し、評価をしていくための材料である。</p> <p>③知識の提供・生活習慣改善のための支援材料（学習教材） 生活習慣病や内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）に関する知識、生活習慣に係る意識啓発や実際に生活習慣を改善するための具体的な方法を提供するための材料である。</p> <p>④自己実践を支援するための支援材料（特に継続的に支援するための材料） 対象者が設定した行動目標の達成のために活用する実践状況の記録、通信による支援等のための材料である。</p>